

## 目次 index

STI Horizon 2016 冬号発行に当たって.....	3
STI Horizon 誌編集長 赤池 伸一 (科学技術・学術政策研究所 科学技術予測センター長)	

## 特別インタビュー

岸 輝雄 外務省参与 (外務大臣科学技術顧問) インタビュー 科学技術外交への期待－今後の展望と課題－ .....	4
理化学研究所 革新知能統合研究センター 杉山 将 センター長インタビュー .....	8

## ナイスステップな研究者から見た変化の新潮流

Ruby アソシエーション まつもと ゆきひろ 代表理事理事長インタビュー .....	14
---	----

## ほらいずん

新たな予測活動の展開に向けてⅡ － IARPA FUSE プログラムにみるホライズン・スキャンニングの新手法－ .....	19
科学技術予測センター 客員研究官 七丈 直弘	
持続可能な「高齢社会 × 低炭素社会」の実現に向けた取組 (その1 文献調査) .....	23
科学技術予測センター 予測・スキャンニングユニット	
対談：ノーベル賞を受賞した研究の背景 組織、研究費、人的支援から考える革新的研究の条件 －大隅 良典 東京工業大学名誉教授の研究を支えた研究基盤－ .....	29
研究計量に関するライデン声明について .....	35
科学技術・学術基盤調査研究室 客員研究官 小野寺 夏生、室長 伊神 正貫	
奇妙な動物を科学に生かす .....	40
科学技術予測センター 特別研究員 矢野 幸子	

## レポート

科学技術・イノベーションの推進に資する 研究開発に関するデータのより良い活用に向けて： OECD『 <i>Frascati Manual 2015</i> (フラスカティ・マニュアル 2015)』の概要と示唆 (後編) .....	42
第1 研究グループ 客員総括主任研究官 伊地知 寛博	

研究開発やイノベーションの状況や動向を把握し、政策の立案や戦略の策定を行うに際して統計調査等が活用されるが、研究開発に係るデータの収集・報告のための国際的マニュアルとして、各国間で互恵する観点から、OECDは『*Frascati Manual*』を策定している。本稿は、改訂作業が完了して2015年に公表された最新版の主な狙いや概要、今後に向けた示唆や留意点等について、2回にわたって紹介する。

---

サイエンスマップ 2014..... 48

科学技術・学術基盤調査研究室 室長 伊神 正貴

科学技術・学術政策研究所（NISTEP）では、論文データベースを用いて国際的に注目を集めている研究領域を見だし、それらを俯瞰した「サイエンスマップ」を作成している。本レポートでは、サイエンスマップ 2014 から見える世界における研究動向と日本の活動状況を紹介します。また、レポートの後半では、インタラクティブ表示を特徴とするサイエンスマップ 2014（ウェブ版）や各種データの公開及びその活用事例について紹介する。

日本の研究者はどのようなジャーナルから論文を発表しているのか  
ーオープンアクセスジャーナルに注目してー ..... 54

科学技術・学術基盤調査研究室 研究員 福澤 尚美

当研究所では、ジャーナルに注目した論文分析を行い、オープンアクセスジャーナル（論文をインターネット上に公開し、誰でも無料でアクセス可能なジャーナル）から発表されている論文の特徴及び主要国（日本、米国、ドイツ、フランス、英国、中国、韓国）の論文発表の特徴について分析した。本レポートでは主に、分析から得られた日本の論文発表の特徴について、論文がどのようなジャーナルから発表され、どのような言語を使用し、どの国から引用されているのかについて紹介する。

オープンイノベーションの Horizon（前編）  
ーコンソーシアム型オープンイノベーションに対する大学の取組ー ..... 60

第 2 調査研究グループ 上席研究官 新村 和久

企業が主体となって行うオープンイノベーションに対する大学の取組について、オープンイノベーションの類型をコンソーシアム型、戦略的提携型（技術探索型と技術提供型）に分類した後、国内での大学が関わる最新動向について洞察を行った。

前編では、コンソーシアム型に焦点を当て、共創の場を構築するためには、非競争領域と競争領域を明確化し、企業間の緩やかな連携促進と開発競争参加へのインセンティブの付与の仕組みが重要であること、などを明らかにした。